

講演者の候補を絞る「マネカレ」とフォーラム

11月20、21日に予定されている第8回遊技産業マネジメント・カレッジ、7月に予定されている第11回人材育成フォーラムの2イベントについて、それぞれのテーマ、講演を依頼する講師等を検討した。

マネジメント・カレッジの特別講師については、各委員が持ち寄った多方面からの候補者をたたき台に審議し、候補者を絞った。早速に相手との打診に入り、7月までには決定することを確認した。また、講演をカレッジの始めと終わりの2回設ける意見も出され、検討することになった。

女性シリーズの集大成

7月の人材育成フォーラムに関しては、一昨年と昨年にシリーズで企画され好評だった「女性が活躍できる組織づくり」の集大成版として行う方針を固め、講師を選んだ。

マネジメント・カレッジ、人材育成フォーラムとともに、業界横断的な組織である日遊協の特色を生



マネジメント・カレッジの講演者等を検討した人材育成委員会

かし、ホール、遊技機メーカー、販社ほか関連業種で働く社員のための研修で、研修者同士の人脈形成も重要な目的の一つとなっている。

このうちマネジメント・カレッジは中堅管理職を対象に年1回開く。グループ討議、特別講演またはパ

ネルデイスカッション、業界リー

ダーたちが参加する懇親会で構成され、遊技産業が直面する課題を共有するとともに、先輩たちとの意見交換を通して優れたDNAを継承する。非会員企業にも門戸を開いている。

一方、人材育成フォーラムは日遊協会員企業の人事担当者を対象にした研修で、今年度は7、9、12月に開催する。

広報調査委員会

5月13日
本部会議室
出席委員等11人

実態調査の態様協議

エ・絵コンクールは休止

今期の事業計画の一つ、遊技産業実態調査について話し合った。調査の主な目的は、パチンコ・パチスロファン拡大のため業界で行う種々の活動に関して、バックボーンとなる様々な基礎データを固めること。とくに誤った情報によるネガティブキャンペーンの払拭、業界の正しい姿のPR等に大きな役割を果たすことが期待されている。

活性化委員会と連動

これらはパチンコ・パチスロ産

業21世紀会に新設された遊技産業

活性化委員会の活動と連動するので、広報調査委員会としての具体的な役割は活性化委員会及びその下に置かれる2つのワーキンググループ（「遊べる遊技機検討」「遊技産業PR」）の動き待ちとなっている。

委員会直前に行われた第4回パチンコ・パチスロエッセー・絵手紙コンクール最終審査結果が報告された。また、今年度から遊技産業実態調査に精力を傾注することで、コンクールをいったん休止することが説明された。

流通勉強会

最近の業界動向を協議

第5回流通勉強会が5月28日、本部会議室で開かれた。東京都関東支部、近畿支部から日遊協会員の景品卸5社の代表、本部から庄司孝輝会長、福井章担当副会長、茂木欣人風営法PTリーダー、篠原弘志専務理事ら計10人が出席した。

専務理事から自民党の「時代に適応した風営法を求める会（風営法議連）」に関連して、最近の業界の動きが報告された。そのあと、賞品流通の適正化について議論した。

遊技機委員会

5月26日
本部会議室
出席委員等15人

来年も「ニコニコ超出展」へ
「フェスタ」の総括で高評価

去る4月25、26日の「パチンコ&パチスロフェスタ2014」(東京・ベルサール秋葉原)と、26、27日のサテライト会場(千葉・幕張メッセ「ニコニコ超会議3」)でのイベント総括のため、フリーに意見を出し合った。その後、正式な報告書を作成し、7月の第2回定例理事會に提出する。

ほぼ全員が「来年も継続するべき」と評価したのが、「ニコニコ超会議」のサテライト会場。日遊協ブースは9メートル四方の面積に体験機16台(パチンコ7台、パチスロ9台)を設置したが、1台につき常に7、8人が順番待ちの状態で、2日間で3146人の一般ファンが試打を楽しんだ。

「新規ユーザー、とくに若年層の獲得を目指すのであればニコ超への出展は効果がある」来年は大きなスペースで台数も増やしたい「サテライトのほうを充実させて主力にすべきだ」などの意見が出た。今回の「ニコニコ超会議3」全体

では、若者中心に2日間で12万5000人のリアル来場者、760万人のネット来場者があった。

メイン会場には課題も

ベルサール秋葉原のメイン会場については、①初日の業界関係の入場者が伸び悩んだ ②B1で行われたパチンコ・パチスロ機器展への来場者も予想より少なかった ③外から見てパチンコ・パチスロの展示とわかるように一階のレイアウトを意識すべき ④一般ファンは新機種に集中していたので、



フェスタ2014を総括した遊技機委員会

遊技産業活性化委員会が初会合

パチンコ・パチスロ産業21世紀に設置された遊技産業活性化委員会(委員長・阿部恭久全日遊連副理事長)の初会合が5月23日、全日遊連本部で開かれた。全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商の6団体から7委員及び幹部が出席した。

各委員が現状分析などで意見を

台の選定に工夫が必要——等の反省点が出された。パチキャラのコンテンツなど、評価する催しも挙げられた。

出し合い、「遊べる遊技機検討」「遊技産業PR」(いずれも仮称)の2つのワーキンググループのメンバー、具体的内容について、第2回会合(7月予定)で固めることを確認した。

阿部委員長以外の出席委員は次の通り。

全日遊連 伊坂重徳機械対策委員

長▽日遊協 大久保正博副会長▽日工組 榎本善紀副理事長▽日電協 原田宗宏専務理事(代理)▽全商協 中村昌勇会長▽回胴遊商 大饗裕記筆頭副理事長(代理)

現行遊技機実務者会議

「若い人に効果大」
ニコニコ超活用に積極意見

新しい遊べるパチンコ機の創出で協議を続けている現行遊技機検討会実務者会議が5月13日、全日遊連会議室で開かれ、阿部恭久全日遊連副理事長、大久保正博日遊協副会長、渡辺圭市日工組理事ら、3団体の幹部及び実務者計18人が出席した。

日遊協が主催した「パチンコ&パチスロフェスタ2014」(4月25、26日、ベルサール秋葉原)、「ニコニコ超会議3」のサテライトブース(26、27日、幕張メッセ)の2会場での実施状況が、アンケート集計速報を含めて報告された。とくに、ニコニコ超会議でのサテライトブースについては、「若い人向けのアピールの場所として、今後業界が積極的に活用していくべきだ」という見解が、出席者にほぼ共通していた。